

脱炭素の取り組み

バンダイナムコグループでは、気候変動への対応が持続可能な社会の実現と事業の継続的な発展に不可欠であるとの認識のもと、2021年4月の「バンダイナムコグループサステナビリティ方針」策定と併せて、脱炭素化社会に向けた中長期の目標を設定しました。また、同年からTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に沿った情報開示を開始するとともに、2023年9月にはTCFD提言への賛同を表明しました。TCFDコンソーシアムにも参加しており、気候変動に関する最新情報の収集等に努めています。

引き続き、気候変動が事業に与える影響と、関連するリスクと機会についてシナリオに基づく分析を行い、これらのリスク・機会への対応を強化、脱炭素に向けた取り組みを推進していきます。

ガバナンス

バンダイナムコグループは、社会の持続可能性が事業活動において重要であることを認識しており、サステナビリティに関する活動をよりスピーディに決定・実行するため、代表取締役社長が委員長を務めるグループサステナビリティ委員会を設置しています。本委員会は半期ごと（年2回）の頻度で開催され、重要議題の1つとして気候変動対応について協議を行い、各施策を検討後、グループ各社

にて施策を実施しています。また、当社取締役会に定期的に結果を報告し、取締役会がその審議・監督を行います。また、本委員会の下部組織であるグループサステナビリティ部会は、バンダイナムコグループサステナビリティ方針およびマテリアリティに沿った活動の推進に取り組んでいます。

戦略

バンダイナムコグループでは気候変動によって生じるリスクと機会の影響を把握するために、シナリオ分析を実施しました。

●シナリオ分析方法

気候変動によるグループ事業への影響を明らかにするために、右の2つのシナリオを用いて2030年におけるシナリオ分析を実施しました。

	1.5℃シナリオ	4℃シナリオ
移行リスク	IEA Net Zero Emission by 2050 (NZE), IEA Announced Pledges Scenario (APS), IEA Sustainable Development Scenario (SDS)	IEA Stated Polices Scenario (STEPS)
物理リスク	IPCC RCP 2.6	IPCC RCP 8.5

注：1.5℃シナリオの情報がない場合は、2℃シナリオに分類される参考シナリオを使用

移行計画

移行リスク・機会

項目			想定される事象	時間軸*1	重要度*2
リスク・機会	中分類	小分類			
リスク	政策・規制	炭素価格の導入	・炭素価格（炭素税や排出権取引制度）の導入により、GHG排出量に応じた課税やクレジット購入義務等が発生し、操業コストが増加する	中～長期	中
		化石燃料の使用に関する規制	・化石燃料の使用に関する規制の強化により、社用車と物流会社の輸送機における化石燃料使用の削減対応コストが発生する	中～長期	小
		プラスチック・資源リサイクル規制	・プラスチック規制の強化により、環境への負荷が少ないバイオプラスチックや再生プラスチックの使用が必須となり、玩具の製造コストが増加する ・リサイクル規制の強化に伴い、玩具・ゲーム機のプラスチックや金属が規制対象になり、製造や廃棄における対応コストが発生する	中～長期	大
		再エネ・省エネ政策	・再エネ政策の拡充により、再エネ需要が高まり、電力価格が高騰する ・省エネ規制が強化され、規制遵守のための技術投資が必要となる	短～長期	中
		情報開示義務	・カーボンフットプリントといった情報の開示義務が課されることにより、情報を開示するための対応コストが発生する	中～長期	小
	市場	原材料コストの変化	・玩具やゲーム機等で使用されるプラスチックや金属の価格が高騰し、製造コストが増加する	中～長期	大

機会	市場	顧客行動変化	・顧客行動における環境への配慮の有無の重要性が高まることにより、環境への配慮をテーマとしたデジタルコンテンツや玩具（環境教育）を通して、新規顧客の獲得につながる	短～長期	小
	評価	投資家評価の変化	・環境への配慮が十分であると投資家から判断されることにより、自社の評価が向上し、株価の上昇や資金調達機会の獲得につながる	中～長期	大

物理リスク・機会

項目			想定される事象	時間軸*1	重要度*2
リスク・機会	中分類	小分類			
リスク	急性	異常気象の激甚化（台風、豪雨、土砂、高潮等）	異常気象の激甚化に伴う風水害の増加により以下事項が想定される ・自社拠点における防災コスト／復旧コストが増加する ・原材料の調達や商品の販売が困難となり、事業が中断される ・外出意欲の低下によりライブ・店舗運営事業の売上が減少する ・従業員への人的被害が発生する ・保険料が増加する	短～長期	中
		干ばつ	・半導体製造量の減少により、玩具や業務用ゲーム機の製造が遅延する ・営業車両の納期遅延	短～長期	小
	慢性	平均気温の上昇	平均気温の上昇に伴う夏季の猛暑により以下事項が想定される ・外出意欲の低下によりライブ・店舗運営事業の売上が減少する ・空調費等の操業コストが増加する ・従業員への健康被害が発生する	短～長期	中
		降水・気象パターンの変化	・梅雨等気象パターンの変化により、雨天日が増加した場合、屋外サービスの売上が減少する	短～長期	小
		平均気温の上昇による原材料生育影響	・食玩に使用される小麦粉等原材料が不作になった場合、価格高騰が想定され、調達コストが増加する	中～長期	中
		海面上昇	・海面上昇の影響により、沿岸部のアミューズメント施設や物流拠点等の事業拠点が浸水し、復旧コストが発生する	中～長期	小
機会	慢性	感染症の増加	・感染症の増加により、外出機会が減少し、ライブ会場やアミューズメント施設への来訪者が減少する	中～長期	中
		平均気温の上昇	・平均気温の上昇により、外出機会の減少に伴う自宅におけるデジタルコンテンツの需要が増加する	短～長期	中
		降水・気象パターンの変化	・梅雨等気象パターンの変化により、雨天日が増加した場合、屋内サービスの売上が増加する	短～長期	中
		感染症の増加	・感染症の増加により、外出機会が減少し、自宅におけるエンタメコンテンツの売上が増加する	中～長期	大

*1 短期：0～1年 中期：～5年（2030年ごろ） 長期：中期以降

*2 大：影響額50億円以上 中：1億円以上～50億円未満 小：1億円未満

注：バンダイナムコホールディングス公式HPサステナビリティサイトでは事業ごとのリスク／機会との関連性および移行計画詳細を開示しています。



[サステナビリティサイト]

SUSTAINABILITY

サステナビリティ

リスク管理

バンダイナムコグループでは、サステナビリティに関するリスクと機会についてグループサステナビリティ委員会で協議のうえ、グループが取り組むべきマテリアリティを特定し、グループ全体のサステナブル活動を推進しています。

事業における気候変動関連課題の特定および評価にあたっては、シナリオ分析を実施し、将来の財務的影響を評価しています。財務的影響の評価では、IEAやIPCCなどの外部機関が提示する将来予測と、グループの事業活動データをもとに、リスクや機会ごとにグループ全体および各事業単位での影響額を算出しています。算出結果に基づき、各リスクおよび機会の影響額を各事業の営業利益と対比することで、事業単位での関連性の程度を評価しています。併せて、グルー

プ全体への影響額を踏まえ、全社的な観点から重要度を判定しています。

サステナブルな活動の推進にあたっては、グループの危機管理体制を統括する「グループリスクマネジメント委員会」とグループ各社が連携しています（●P108）。

グループ各社では、事業特性に合わせた施策をマテリアリティに沿って実施しており、その結果を連結会計年度ごとに、グループ全体および事業ユニットごとに分析し、翌連結会計年度以降の施策の改善につなげています。この分析内容については、グループサステナビリティ委員会が協議したうえで当社取締役会に報告し、必要に応じて取締役会が審議・監督を行っています。

指標および目標

バンダイナムコグループは、自社のESG経営の進捗および気候変動に対する政策リスク等の影響を評価・管理するために、GHG排出量を指標として設定し、自社拠点（社屋、自社工場、直営アミューズメント施設等）におけるGHG排出量を2030年までに2020年3月期比50％削減、2035年までに2020年3月期比65％

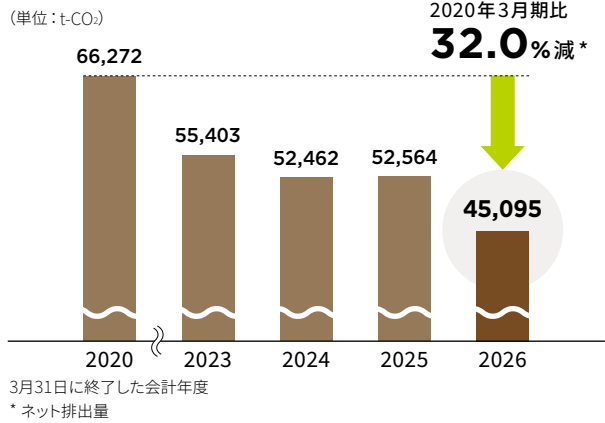
削減することを中間目標として掲げています。さらに、2050年までには、自社拠点におけるGHG排出量を実質ゼロにすることを目標としています。今後は、目標達成に向けて、省エネルギー施策のさらなる推進や再生可能エネルギーの導入、カーボンクレジットの導入等を進めていきます。

脱炭素化に向けた中長期目標



* 社屋、自社工場、直営アミューズメント施設等

バンダイナムコグループ CO₂排出量の推移（Scope1 + Scope2）



注：1 2022年3月期以前の再生可能エネルギー使用（購入）量は非再生可能エネルギー使用量に合算されています。
2 Scope1およびScope2の数値については第三者による限定的保証またはレビューを実施しています。
3 Scope1、Scope2、およびScope3の対象はバンダイナムコグループ国内外全社（連結）となります。
4 過去の実績値については、集計結果の精査を行い、遡って修正する場合があります。
5 Scope3におけるカテゴリ別CO₂排出量、およびその算出方法はバンダイナムコホールディングス公式HPサステナビリティサイトを参照ください。

サプライチェーン CO₂排出量（Scope3）

（単位：t-CO ₂ ）		2026年3月期
Scope3		1,907,270
カテゴリ1	購入した製品・サービス	1,044,129
カテゴリ2	資本財	201,732
カテゴリ3	Scope1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	8,477
カテゴリ4	輸送、配送（上流）	23,586
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	6,101
カテゴリ6	出張	14,591
カテゴリ7	雇用者の通勤	1,567
カテゴリ8	リース資産（上流）	対象外
カテゴリ9	輸送、配送（下流）	4
カテゴリ10	販売した製品の加工	対象外
カテゴリ11	販売した製品の使用	8,377
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	598,706
カテゴリ13	リース資産（下流）	対象外
カテゴリ14	フランチャイズ	対象外
カテゴリ15	投資	対象外

MESSAGE

脱炭素の取り組み



中桐 美由貴 | Miyuki Nakagiri

株式会社BANDAI SPIRITS
ホビーディビジョン ホビークリエイション部
事業戦略チーム アシスタントマネージャー

BANDAI HOBBY CENTER PLAMO DESIGN INDUSTRIAL INSTITUTE (BHCPDII)

太陽光発電と省エネ設計で進化する、サステナブルな「魅せる工場」

静岡県静岡市にあるバンダイホビーセンター（BHC）の新工場「BANDAI HOBBY CENTER PLAMO DESIGN INDUSTRIAL INSTITUTE (BHCPDII)」(●P58) は、プラモデルの安定供給のための生産拠点であると同時に、サステナブルなモノづくりを実践する「魅せる工場」として完成しました。

象徴的な取り組みが、工場屋根に設置された太陽光発電システムです。BHCPDIIでは1,080枚の太陽光発電パネルを設置し、2025年8月から発電を開始しました。工場がフル稼働前の段階でも、使用する電力の一部を太陽光発電でまかなっており、2025年8月から2026年3月までの8カ月間で179トンのCO₂削減効果が確認されています。静岡市は日照条件にも恵まれており、既存のバンダイホビーセンターに

設置された太陽光発電システムでも想定を上回る発電実績が出ています。

一方で、BHCPDIIの環境配慮は太陽光発電だけではなく、建物全体で省エネルギー性能を高める設計を採用し、生産エリアの空調や照明も含めて、工場全体でエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。高効率空調、LED照明、断熱性の高い建材に加え、電力使用状況を可視化するシステムも導入し、日々の運用改善につなげています。

また、成形から袋詰め、セット梱包、出荷までを同一建屋内で行うオールインワンの生産体制も大きな特徴です。従来の工程で発生していた拠点間の輸送を減らし、AGV（無人搬送機）や自動搬送システム、天井搬送台車を活用する

MESSAGE

脱炭素の取り組み

ことにより、省人化と高効率化を進めています。さらに雨水の活用や近隣住民とのイベント開催等によるコミュニケーション、ミュージアムを通じたモノづくりの発信など、地域やファンとのつながりも重視しています。

2026年8月のフル稼働後は、年間を通じた電力使用量や発電量のデータを丁寧に把握し、空調管理や設備運用のさらなる最適化に取り組んでいきます。BHCPDIIIは、長年ホビー

センターで培ってきた知見を詰め込んだモデル工場でもあります。環境に配慮しながら、高品質なプラモデルを安定して届けることはもちろん、子どもたちやファンに「ここで働いてみたい」と思っていただけのような、憧れの場所であり続けたいと考えています。



BHCPDIIの太陽光発電パネル



BHCPDII MUSEUMの外観

TOPIC

脱炭素に関する取り組み事例

各拠点の取り組み

バンダイナムコグループでは、国内外主要拠点、国内工場、物流拠点、全国のアミューズメント施設における脱炭素の取り組みを推進しています。

2023年3月期より各拠点における再生可能エネルギーへの切り替えをスタート。以降、バンダイホビーセンターをはじめとした国内工場における太陽光発電の導入、業務用ゲーム機の省電力化、FIT非化石証書やカーボנקレジットの導入等といった取り組みを進めており、2026年3月期におけるグループのGHG排出削減量は2020年3月期比約2.1万t-CO₂となっています。

多様な経験と視点で

ガバナンスを支える。

バンダイナムコホールディングス独立社外取締役

INDEPENDENT

OUTSIDE DIRECTORS: